

音楽科

感じる・考える・学び合うことを通して音楽を楽しむ子供の育成

～味わって聴くことを、協働する音楽づくりに生かす授業の追究～

研究第3年次となり音楽科では、昨年の研究の成果や課題をふまえ、「音楽の学び」につながる問題を明確にし、音楽を味わって聴くことを、音楽づくりに生かしていこうと考えました。その音楽づくりでは、発達段階に応じた学び合いの場で支援や、互いに共有した思いをアンサンブルや合唱にさらに生かしていくための支援を工夫して、これまで授業実践をしてきました。

(音楽科主任 由井 薫)



1 昨年度までの研究の経緯

音楽科では、全体提案の内容から、音楽科で目指す子供像を「音楽を楽しむ子供」ととらえ、研究主題を「感じる・考える・学び合うことを通して音楽を楽しむ子供の育成」とし、具体的な子供像を次のように考えた。

目指す子供像

- ア 友達と共に音楽をつくる中で、感じたことをお互いに共有したり共感したりできる子供
- イ 生活の中での多様な音楽体験を生かし、より深く音楽にかかわり、音楽の楽しみ方を探求しようとする子供

この目指す子供像に迫るために第1年次 第2年次の副主題や研究の柱を次のように設定して、研究に取り組んだ。

▷ 第1年次副主題「音楽づくりの活動を通して考えるを大切にする授業の構想」

- (1) 「音楽の学び」の新たな取り組みの可能性を引き出す教材や題材の開発
- (2) 考える場面を取り入れた音楽づくりの活動の工夫
 - ア 感じる・考えるを繰り返しながら課題を生み出す活動の工夫
 - イ 課題の解決や課題を表現や鑑賞に生かす活動の工夫
- (3) 感じる・考えるを深める学び合いの工夫
 - ア テーマを明確にし、みんなでテーマを探究する学び合いの工夫
 - イ 考えを出し合って一つの音楽をつくりあげる学び合いの工夫

▷ 第2年次副主題「音楽への思いを深め、表現に生かす授業の追究」

- (1) 「聴くこと」を自分の表現に生かす題材展開の工夫と教材の開発
 - ア 「聴くこと」を通して音楽の学びが明確になる題材展開の工夫と教材の開発
 - イ 明確になった学びをもとに、自分の思いを表現する展開の工夫
- (2) 友達とともに音楽をつくりあげることで自己の成長を感じられる授業の工夫
 - ア 一人一人の思いが生かされるグループ活動の工夫
 - イ 自分の思いを表現できる振り返りの場の設定

昨年度までの研究の結果、以下の成果と課題が得られた。

【成果】 子供たちは、「聴き合う」活動を多く取り入れることによって、課題が明確になり、自分の思いを深めることができるようになってきた。また、子供一人一人が表現への思いや願い、イメージをもって音楽づくりに取り組む授業や、様々な音楽活動を通して学んだ音楽素材・音楽の諸要素・曲全体の構造などを生かし、工夫して友達と一緒に音楽をつくっていく授業を展開してきた。これらのことで一人一人が目標の達成感を持つことができた。

【課題】 「聴くこと」の活動を、自分の表現に生かしていけるような題材展開の工夫が課題となっているので、教材の開発を行いながら、「聴くこと」の活動を授業のあらゆる場面で取り入れて深めていきたい。また、音楽づくり等グループ活動を行う時は、自分の考えと友達の考えをつないで、お互いの考えに共感し、認め合いながら、自分の演奏に取り入れていく支援を工夫していくことが、課題となっている。

2 全体提案との関連

(1) 子供が学びの価値を味わい、自ら学びをつないでいく授業を創る

「学びの価値を味わう」を、音楽科では「音楽のよさや楽しさを味わうこと」であると考えた。生活にあふれている音楽に関心を持つようにさせ、様々な音楽的要素に気付かせる工夫をして、そのよさや楽しさを感じ取れるようにする。そして、よさや楽しさを味わうためにまず「聴くこと」の活動を充実させる。

また、「自ら学びをつないでいく授業」を、音楽科では「協働する音楽づくりの活動を中心にした授業」とした。「協働する」とは、子供一人一人が様々な考えを持ち、お互いに理解、啓発、刺激し合いながら自分を表現するということであり、それにより満足感が得られる。さらに、児童相互の信頼関係も生まれるということにつながる。

そこで、本校音楽科の学びの価値を味わう授業像を「聴くことを通して、音楽のよさや楽しさを味わったことを、音楽づくりに生かしていく授業」と設定した。

(2) 学ぶ活力を育む工夫を通して、学びへの主体性を高める

「協働する音楽づくり」は、子供同士がお互いに理解、啓発、刺激し合いながら、学びを深めていくという活動であり、学ぶ活力を育むことにつながる。また、「自ら学び合う仲間を創る」ことにつながる。さらに、授業の過程の中で、自己決定が必要な場面を位置づけ、「学びを生み出す活動の設定や支援の工夫」を満たすようにする。自己決定が必要な理由は、グループ活動をする中でも自分の考えをしっかりと持たせて、自分の思いを表出させることになるからであり、学びへの主体性も高めることにつながるからである。一人一人の思いを表出しやすいように、教師が言葉かけをしたり、意見の出やすいグループ編成を工夫したりすることが、重要となる。

3 研究の方向

日常生活の中に音楽は満ちあふれている。子供たちは、様々な音楽のジャンルの中で好きな音楽に出会い、その中にもその音楽のよさや美しさを感じることができると考える。また、聴き深める中で音楽的諸要素（音色・強弱・リズム等）を感じ取り、自分なりのイメージや思いを持ち、それをもとに表現を工夫することができるようになると考える。そしてそれが、「音楽の学びの価値を味わう」ことにつながる。

また、「味わって聴く」ことで自分の思いを持ち、その思いは「この音楽を演奏したい」「いろいろな楽器を使いたい」という主体的に、音楽にかかわる思いとなり、それまでに持っていた自分のイメージや思いをさらに深めていくようになると考える。「音楽づくり」については、生活の中にある音に耳を傾けたり、様々な音を探して音をつくったりして音の面白さに気付くと考えられる。そして、様々な活動を通して深まった思いは、友達と思いや意図を共有することでさらに膨らんでいくと考えられる。このように、音楽を味わって聴いたり、音楽づくりをしたりする活動の中で、子供たちは意欲的に取り組み、自分たちの課題を解決していこうという姿が見られるようになる。このことは、全体提案の研究副主題「学ぶ活力を育む」につながると考える。

そこで、音楽科の今年度の副主題を「味わって聴くことを、協働する音楽づくりに生かす授業の追究」とし、次の2点から研究を進めていくこととした。

(1) 音楽を聴くことのよさや楽しさを味わうための支援

(2) 聴くことの活動から、友達と思いや意図を共有して音楽をつくる授業の在り方

4 研究の内容

(1) 音楽を聴くことのよさや楽しさを味わうための支援

学びを生み出す活動の設定として、自己決定が必要な場面を位置づけることが必要だと考え、次の3つの過程における支援の工夫を、具体的な方策とした。

ア 授業の導入・展開部に生活の中にある音楽を取り入れ、そのよさや楽しさを感じ取らせる工夫

子供は自分の好きな音楽には、よさや楽しさを感じることができると考えられる。また、音

楽科として聴かせたい曲の中には、気付いてほしいよさや楽しさがある。そこで、子供の生活の中にある音楽や聴かせたい曲を導入や展開部で扱う。ただ聴かせるのではなく、曲名を伏せ曲想から曲名を想像させたり、曲想の違う曲を何曲か聴いて特徴を比べたりするなど、聴かせ方を工夫することが、音楽のよさや楽しさを感じ取ることができると考えたからである。

イ 音楽的諸要素を明らかにすることで、子供たちが音楽を聴くことのよさや楽しさを理解する展開の工夫

展開部では、上記アでの生活の中にある音楽が持つ音楽的諸要素（音色・強弱・リズム等）を明らかにして聴かせる。さらに、同じテーマを持つ楽曲を紹介して聴かせ、共通していることや違いに気付かせるようにする。また、発達の段階に応じて、旋律を口ずさんだり、楽器で演奏したりするなど体験的な活動も行つて、そのよさや楽しさを理解できるようにする。

ウ 音楽を聴くことのよさや楽しさがわかるための感受と理解を合わせる手立ての工夫

導入や展開そして終末において、感じ取ったことを言葉で表すなどの言語活動を位置付け、楽曲のよさや楽しさがわかるようにする。音楽から言葉へ、言葉から音楽へと言語を介した鑑賞活動を推し進めることで、音楽づくりにつながるように支援したい。またそうすることで、受け身になりがちであった鑑賞の活動を、児童の主体的で創造的な鑑賞の活動になるように改善することを意図したものである。

5年生【祭りばやしをつくろう】の実践例

曲想の異なる祭りばやしを3曲選び、段階をふまえて聴けるように3回聴かせる。1回目は、曲名を伏せて聴き、感じたことを自由に書かせる。2回目は、映像を見て音と楽器を結びつけたり身体表現をまねたりすることで、リズムや楽器の音色の特徴に自然に気付くようにする。3回目は、音楽の諸要素（音色・リズム）を全体で確認してから聴くことで、曲の特徴とのつながりを感想に生かせるようにする。

このようにそれぞれの曲の祭りばやしのリズムや音色の特徴を聴き取り、そのイメージや感想を言葉で表すことによって、味わって聴くことができる。

(2) 聴くことの活動から友達としたいや意図を共有して音楽をつくる授業の在り方

味わって聴いたことをもとに、音楽の諸要素・曲全体の構造などを生かし、工夫して友達と一緒に音楽づくりに取り組む授業や、多様な考えをつないで新しい見方や考え方を見つける活動として、子供一人一人が、豊かな音楽的感性や創造性を働かせ、表現への思い、願い、イメージを持って友達と音楽をつくっていく授業を展開していきたいと考え、次の点から実践をしていくこととした。

ア 聴くことと音楽づくりをつなぐ意欲を高める工夫

子供が音楽を味わって聴いたことをもとに、教師が音楽の諸要素などを示しながら音楽づくりの例を示すことで、音楽をつくることのよさや楽しさを伝えて、音楽づくりに関心を持つことができるようにする。さらに言語活動を位置づけ、イメージを共有化できる友達と一緒に活動することの喜びを味わわせて、音楽づくりの意欲が高まるようにする。一人一人が達成感を持ち、友達とイメージを共有化するために次のような支援をしていきたいと考える。

まず、教師自らが簡単な音楽をつくることで、子供たちがスムーズに音楽づくりに取り組めるようにする。その時に聴くポイントを示す音楽的諸要素を記したカードを提示することで、鑑賞の活動を生かしながら取り組めばよいことが、目で見てわかるようにする。音符が書けない児童には、図形や言葉で示してもいいことを告げ、音楽づくりは楽しいというイメージを持つようにさせる。

イ 共感と学び合いから音楽づくりをする活動の工夫

グループ内での共感、リズムや音色等の音楽的諸要素を手がかりにして互いの音を聴き合い、その音について自分の思いやイメージを話し合うことで満たすことができると考えられる。学び合いは、同じイメージを持ったグループ同士の聴き合いや自分たちの演奏を録音したものを聴き合うことなどで、よりよい音楽づくりを目指す。また、互いのグループの聴き合いも大切に、よいところを認め合うことで、子供に達成感を持たせて、さらによりよい音楽づくりができるようにする。

ウ 音楽づくりをするための支援

音楽を集中して聴くことで、音の出し方や組合せを工夫したり、音楽の仕組みである反復、問いと答え、変化などに着目し、それを手掛かりに音を音楽へと構成したりする活動に、児童が取り組みやすいようにする。例えば、グループ活動において反復等を取り入れているグループを紹介しそのよさや工夫に気付かせるようにする。また、変化に気付いたグループには全体の前で発表させ、そのことを共有できるようにする。楽器の選定についても様々な楽器にふれられるような場の設定を考え、児童がいろいろと演奏しながら決定していくようにしたい。

また、グループ活動においてはその在り方を理解させるとともに、みんなの思いをまとめられるようにリーダーを中心として学習していけるような授業を工夫したい。リーダーには声掛けなどの支援をし、スムーズに音楽づくりに取り組めるようにする。

5 発達の段階に応じた指導の系統

次の表は、研究の副主題である「味わって聴くこと」と「協働する音楽づくり」がどう関連するのか、また、新学習指導要領をどう受けているか、学年に応じて表した指導の系統である。

	味わって聴くこと	協働する音楽づくり	新学習指導要領より
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律を口ずさむ ・リズム打ちをする ・音のイメージを絵や言葉に表す 	<ul style="list-style-type: none"> ・音遊びや簡単な音楽づくり ・声や身の回りの音を使った活動 ・音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくる 	音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取りやすい楽曲を選び、よさや面白さ、美しさを感じ取ることができるようにする
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律を口ずさむ ・楽器で演奏する ・想像したことや感じ取ったことを言葉で表す 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音の響きやその組合せを楽しむ ・反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、始め方や終わり方を意識して、まとまりのある音楽をつくる 	音楽の聴き方や感じ方を広げられるように、児童にとって親しみやすく音楽の面白さ、美しさを感じ取ることができる楽曲を選曲する
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想とその変化の特徴を感じ取って聴く ・要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴く ・自分の好きな楽曲のよさを紹介文にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱や器楽、音楽づくり、鑑賞からいろいろな発想を得て、即興的に表現し合う ・明確な考えや願い、意図を持つようにし、音楽的な要素や仕組みを選んだり組合せたりして、まとまりのある音楽をつくる 	音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取りやすい楽曲を教材として選び、それらの働きが生み出す音楽のよさや面白さ、美しさなどを感じ取ることができるようにする

この表から関連をまとめると、低学年の「音楽づくり」では、音の様々な特徴に気付く能力、音を音楽に構成する能力を育てていくことが指導のねらいとなる。そのために、「聴くこと」の活動で音楽を形作っている要素に興味・関心を持ち、音楽を聴く楽しさを十分に味わうようにする。

中学年の「音楽づくり」では、発想をもち即興的に表現する能力、音を音楽に構成する能力を育てることが指導のねらいとなる。そのために、低学年で身に付けた「聴くこと」の能力を基にして楽曲の構造に気を付けて聴きながら、聴く喜びを味わうようにする。

高学年の「音楽づくり」では、これまでの音楽経験で得た音楽表現など、いろいろな音楽表現から音楽づくりの発想を得て、即興的に表現することが指導のねらいとなる。そのために、楽曲を全体にわたって感じ取る能力、楽曲の構造を理解して聴く能力を高めるようにする。

6 成果と課題

子供たちは、音楽を聴くことのよさや楽しさが分かり、言語活動を取り入れることで、鑑賞活動に主体的に取り組めるようになってきた。また、グループ活動においては、様々な支援を工夫することで共感と学び合いから音楽づくりをすることができるようになった。今後は、さらに「聴くこと」と「音楽づくり」を関連させた授業展開を工夫していきたい。